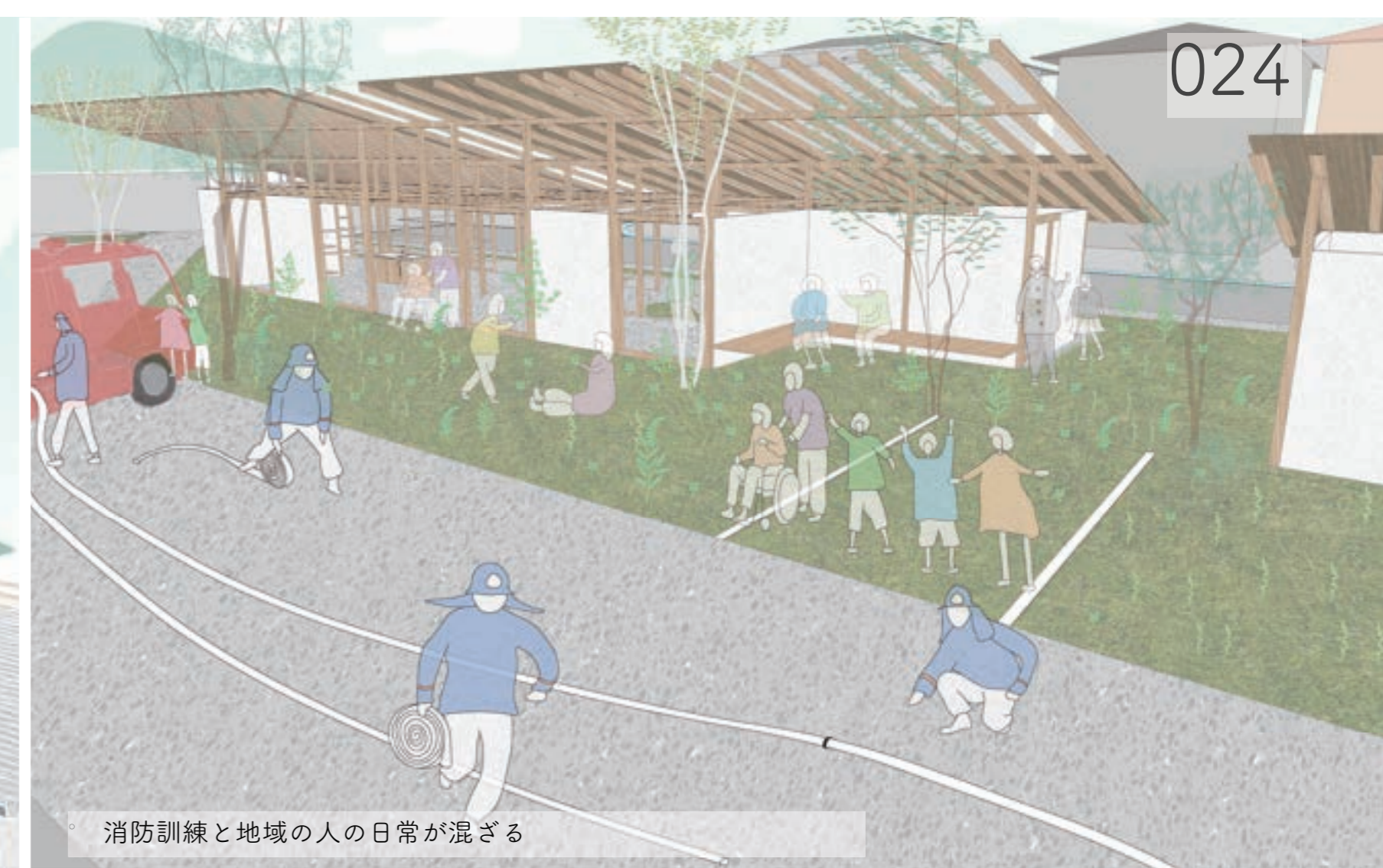


三原に灯をおこす屯所

防災について考えてみる。例えば、隣に住むおばあちゃんに挨拶を交わすことや、毎日散歩しているおじいさん見かけることのように町の小さな日常の中で発生するささやかな出会いやちょっとした気付きが、町の人々のつながりや交流を通して人を知ることが出来、それが地域全体で街をまわる最大の防災につながるのではないだろうか。このことから、まちを通して人を知り、三原に灯を起こす、地域の活動拠点としての新たな屯所を提案する。



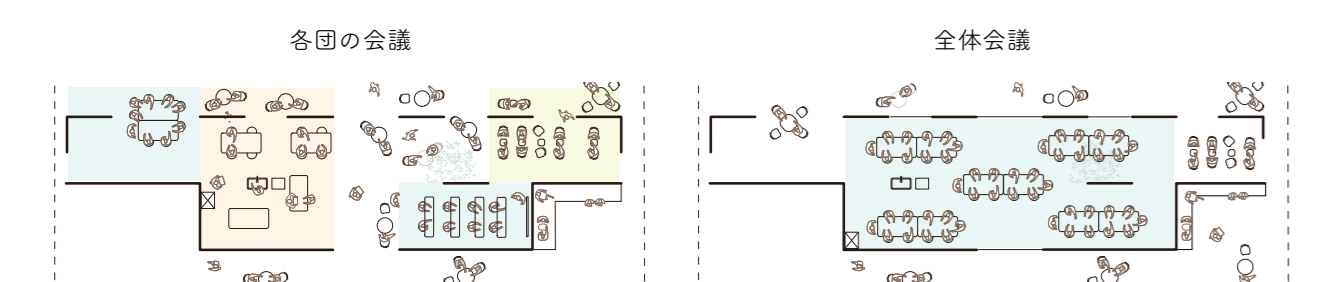
消防訓練と地域の人の日常が混ざる



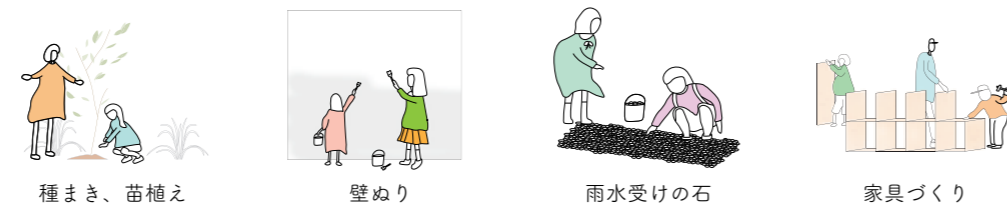
祭りのようなハレの日が地域の人の企画によって開催される

設計におけるテーマ

- 屯所での活動を知ってもらうこと
…屯所が日頃から地域の人が利用されることで消防団との接点になったり、活動に触れることに繋がる。
- 地域の人同士の繋がりをつくること
…地域の人同士の関係づくりがこれからの防災のあり方であり、愛される地域をつくることに繋がる。

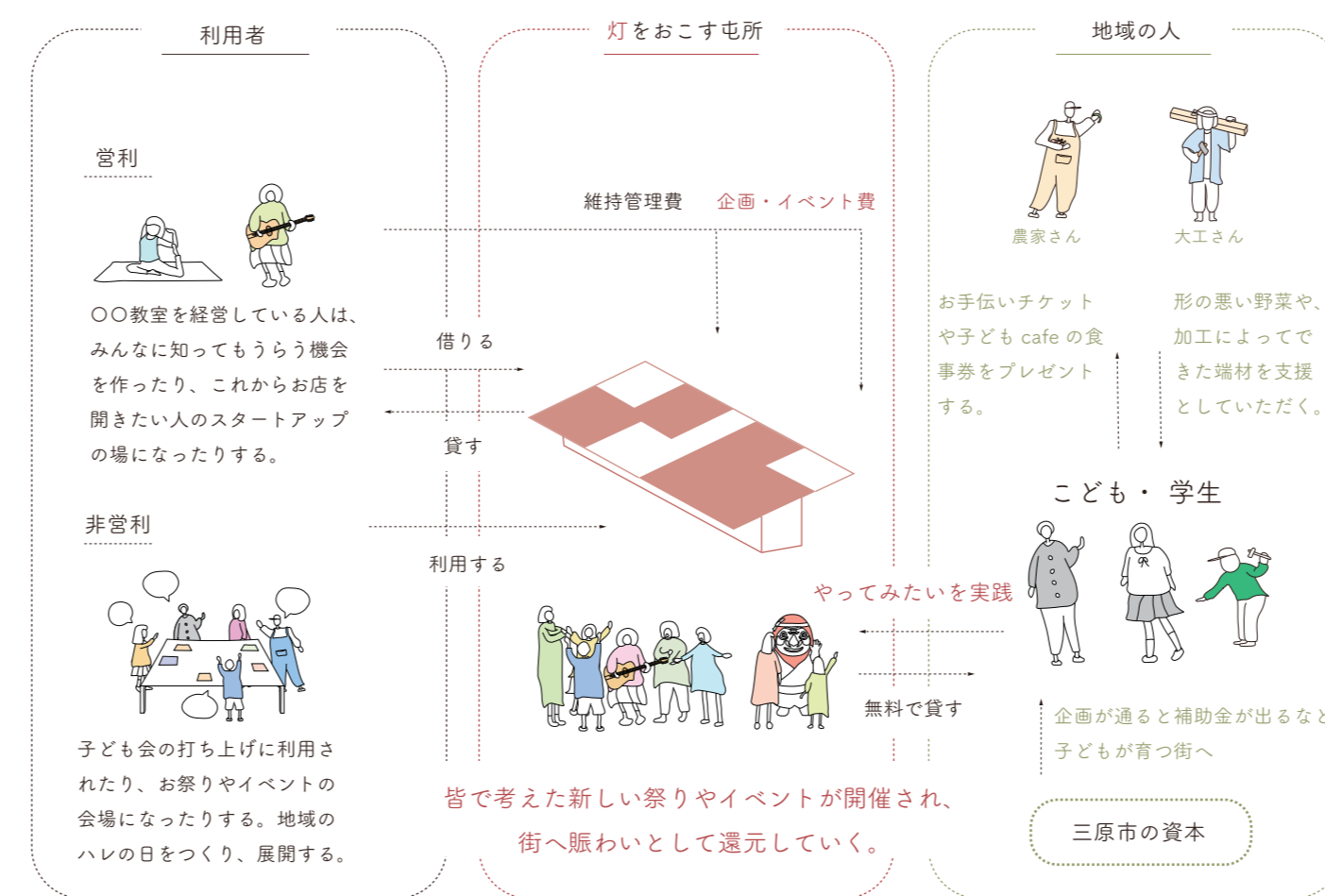


1 つくりながら考える - みんなでつくる屯所 -



自治体や近くの小学生、中学生などの地域の人を交えた、ワークショップ等を実施しそれを通して屯所の使い方を想像し、自分達の屯所のスタートに関わることで、地域に愛され、根ざした場所となる。また、このワークショップによって消防屯所と地域の人の繋がりのスタートにもなる。

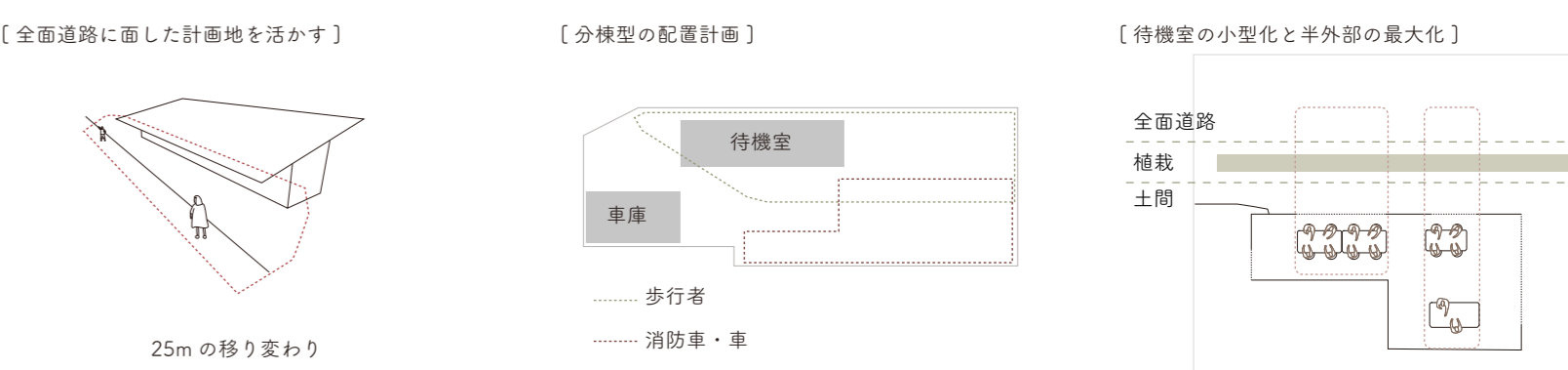
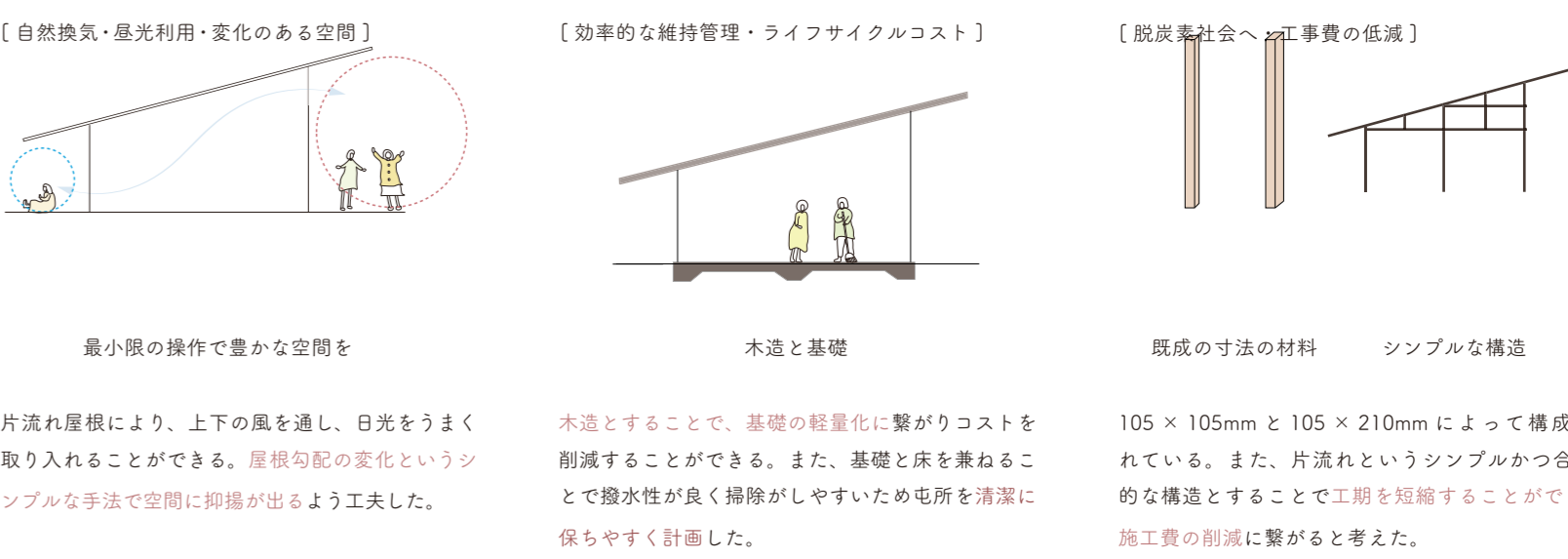
2 やってみたいの実践場 - 地域と繋がる循環スキーム -



3 地域の特性を活かす - みんなの趣味の共有から始まるネットワーク -



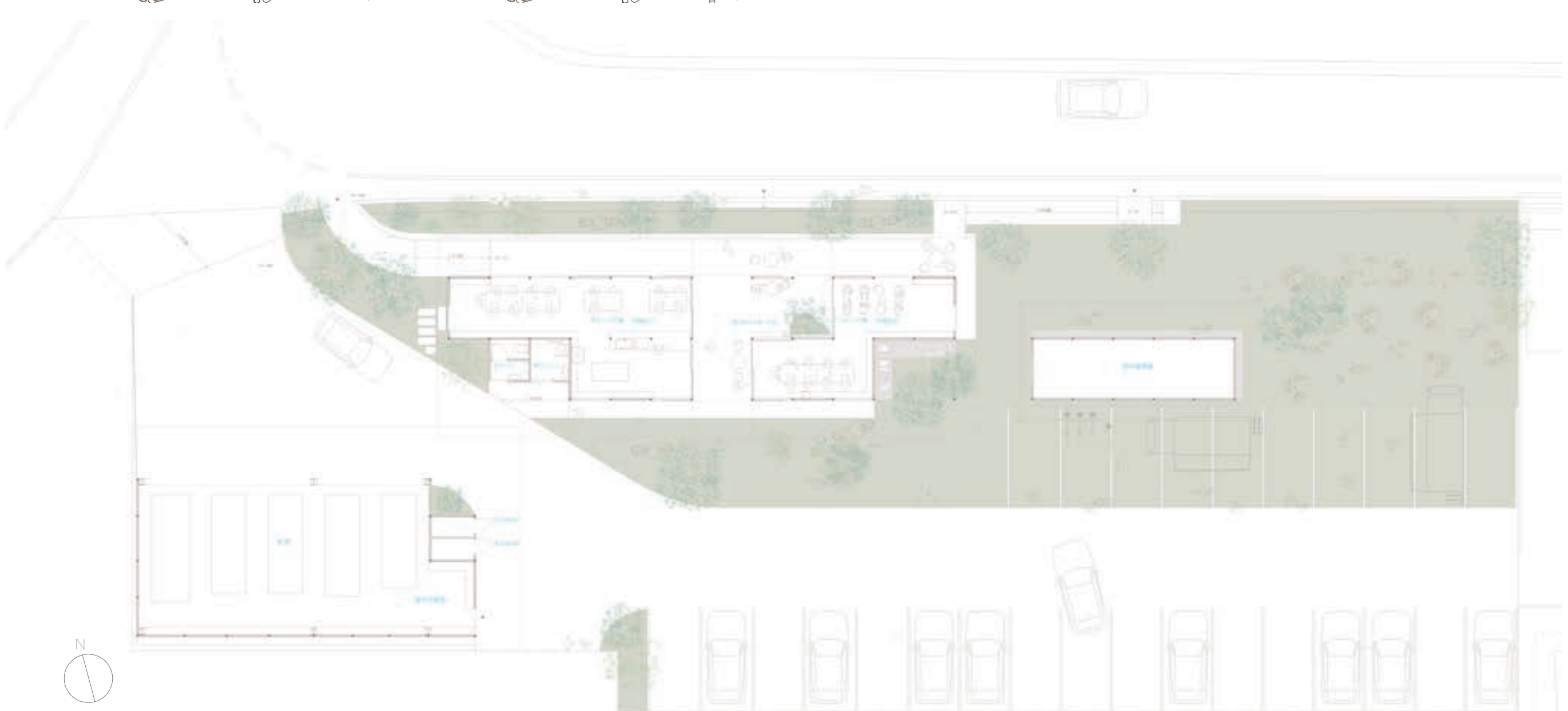
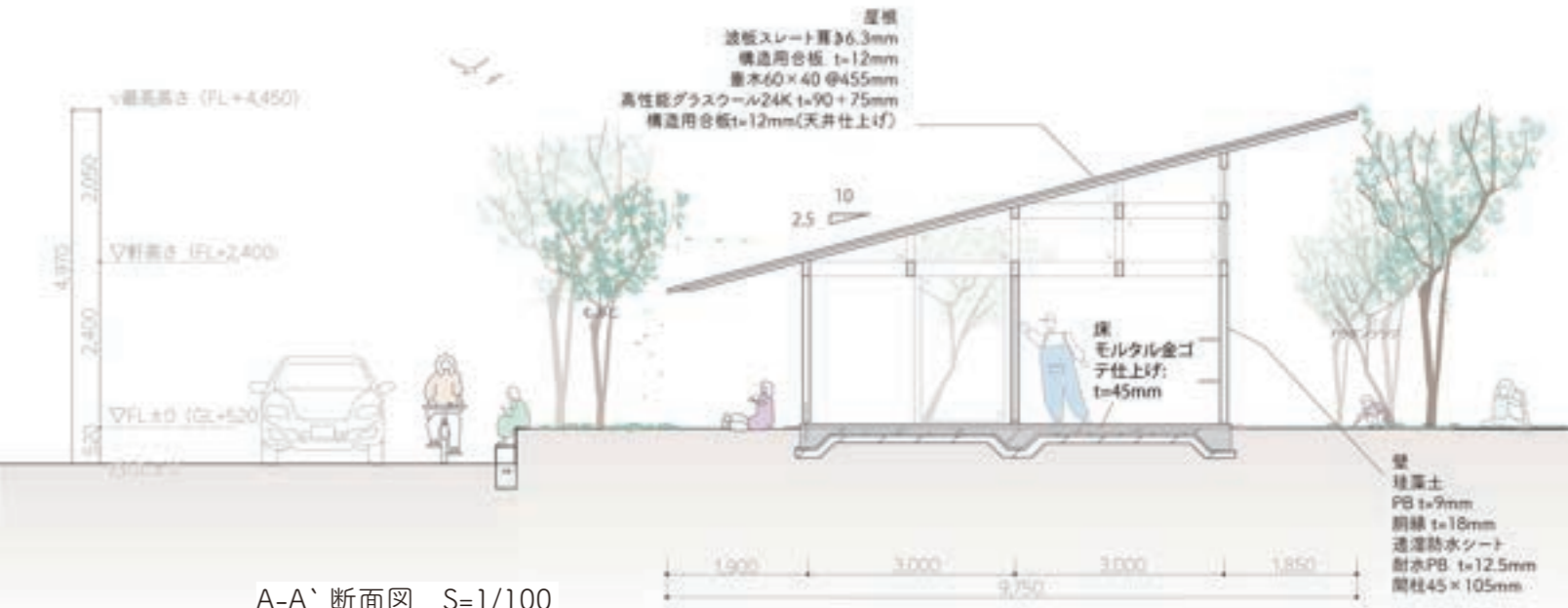
4 コスト・環境・空間 - ソフトを支える建築 -



計画地に面する全面道路は、学生の通学路や犬の散歩道など、地域の人の動きがよくみられた。そこで道路に対して広く開く、地域との接点をつくる建築形態を試みた。

待機室と駐車場の両方から入りやすい計画とした。

待機室を他の団の部屋と連続する構成にすることで会議をするスペースを広く確保できることから面積を縮小した。代わりに中央に通じける土間を設けたり、屋根の軒をのびし空間を拡張している。また、引き戸を開け放つと全面道路と一体となり床面積以上の空間の広がりを感じることができる。



敷地面積	建築面積	延床面積	建蔽率	容積率
1571.8㎡	352㎡	278㎡	22%	18%

平面図 S=1/200

